



---

目次

---

はじめに  
凡例

第一 歌人 — 太古の神々

10

第二 歌人 — 持統天皇

26

第三 歌人 — 柿本人麻呂

39

第四 歌人 — 大伴家持

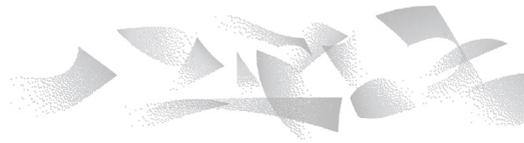
53

第五 歌人 — 小野小町

68



第十五歌人	第十四歌人	第十三歌人	第十二歌人	第十一歌人
—	—	—	—	—
源実朝	藤原定家	式子内親王	西行	藤原俊成
232	215	199	180	165



第十歌人	第九歌人	第八歌人	第七歌人	第六歌人
—	—	—	—	—
紫式部	和泉式部	紀貫之	菅原道真	在原業平
148	131	113	102	85



第十六歌人	—	後鳥羽院	251
第十七歌人	—	永福門院	266
第十八歌人	—	後水尾天皇	281
第十九歌人	—	良寛	295
第二十歌人	—	幕末志士	309

主要参考文献および読書案内	324
和歌索引	335

凡例

- 一 和歌の本文・歌番号は、基本的に『新編国歌大観』（角川書店）によりますが、『万葉集』の歌番号については旧『国歌大観』により、訓は多田一臣『万葉集全解』第一巻（第七卷（筑摩書房）を基本としました。出典は、適切な私家集に加えて、近い時期に成立した勅撰集の入集状況も記しています。散文は『新編日本古典文学全集』（小学館）、漢詩文は『新釈漢文大系』（明治書院）により書き下し文で引用しました。上記の書に未収載の和歌や作品は、巻末の参考文献に記しています。
- 二 歌人の配列は、ほぼ活動時期の順とし、近接した時代の場合は和歌史の流れやまともにも重視しました。また、本書中の人名は、通称に従っています。
- 三 『古今和歌集』などの勅撰和歌集は『古今集』のように、原則、簡略表記としました。
- 四 和歌や引用本文は歴史的仮名遣いにより、漢字・仮名・送り仮名・振り仮名を適宜、読みやすいように工夫して整えました。
- 五 和歌が収録されている歌集は「詞書」↓詠作者名↓和歌の順に記されます。「詞書」は、「題詞」とも言い、和歌が詠まれた経緯、出典、歌題などを説明したものです。時折、和歌の左側に補足的な説明を加えた「左注」を付すことがあります。
- 六 和歌以外の古典作品や資料をあげる際には、適宜、現代語訳のみを紹介する形とした場合があります。